

今週のみことば

「聖霊降臨の出来事～福音の伝達～」

(創世記 11 章 1 節～9 節)

「それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。そこで【主】が全地の話しことばを混乱させ、そこから【主】が人々を地の全面に散らされたからである。」(11:9)

(使徒の働き 2 章 1 節～11 節)

「すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」(2:4)

今日のメッセージ要旨

◎現在、地球上に多種多様な人類が存在し、それぞれに言語があります。昔は一つであったのに散らばって、現在に至っております。それぞれの人種に、その地方の言語を用いてイエス・キリストの福音が伝えられるようになったのは？

◎創世記11章の前半には、人々が「バベルの塔」を築いたが、それを神様が「ご覧になるために降りてこられ」、その塔を破壊し、言葉を乱し、人々を散らされた事が記されています。全地は「一つことば」「一つの話」であり、人々が塔を建てようとした目的が「頂が天に届き」、「名をあげ」、「全地に散らされる」事のないためでした。主なる神様が「降りて来られ」、「言葉を混乱させ、通じないように」されたのです。神さまは人間が神のようになろうとした試みを砕かれたのです。

◎使徒の働き 2 章は約束の聖霊降臨が起こった事の記事です。「五旬節の日になって」(1)とは「日が満ちて」です。聖霊降臨の出来事は神様の約束が成就したことなのです(ヨエル2:28-29, ルカ24:49, 使徒1:4-5, 8)。この「五旬節の祭り」はレビ記23:15-16に由来し、ユダヤ教の三大祭(過越の祭、七週の祭、仮庵祭)の一つです(過越祭の安息日の翌日から数え始めて満七週間を経た翌日まで50日を数えた)。その日に約束の聖霊が降ったのです。神様が時を支配しておられるのです。

①聖霊降臨の出来事は「みなが一つ所に集まって」祈っていた時に起こったのです(1, 1:15, 2:44, 49)。私たちも主イエス様の約束を信じ、共に心を合わせて祈る群れでありたいと願っています(マタイ18:19-20)。

②「御霊が話させてくださるとおりに…話し出した」のです。それは「炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった」からです。炎は罪を焼きつくし、潔めると同時に愛を表わしています(ガラテヤ5:22)。「舌」は「言葉」を語る働きにも用いられます。ですから、相手の理解出来る言葉で証しする者と変えられたのです(ルカ12:11, 12)。

③使徒の教えを大切に守り、愛の交わりが深められ、聖餐に与り、心を合わせて共に祈ったのです。教会が一致して神様を愛し、隣人に仕え、愛に生きる歩みをする事が証しとなるのです。その結果、日々仲間に加わる者が加えられたのです。私たちもそのような歩みに与る証し人とされるように祈り求めていきましょう。

◎最後に、ペテロが大胆に語った福音の内容は、①悔い改め、②洗礼、③罪の赦し、④聖霊の約束です。私たちも自分の罪深さを知り、日々悔い改めと信仰をもって主イエス様の十字架を仰ぎ、聖霊を求め、日々、御霊に満たされ、教会生活を大切に、聖徒の交わりに与り、証しの生活をさせて頂きましょう。